

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-01-01

事務事業名	文化財発掘調査事業			事務の種類	自治事務(義務的なもの)	
				連絡先	内線4481	
担当部署名	文化財・世界遺産室			予算科目	会計	1 一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10 教育費
	施策	3	歴史・文化		項	5 社会教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	4 文化財保存事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市内に存在する埋蔵文化財				
	目的(どうしたいか)	文化財を保護し、さらにはその活用を積極的に図り、市民をはじめ多くの人たちに本市の個性の一つである豊かな歴史性を周知する。また、文化財を将来へ継承していく。				
	手段(事業内容)	開発工事等との調整を図り、埋蔵文化財の保護を行う。場合によっては記録保存のため発掘調査を実施する。				

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	7,005	6,724	6,861
決算額	事業費	4,600	6,635	-
	特定財源等	1,871	2,030	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】	
・文化財調査委託料	1,715千円
・印刷製本費	488千円
・機器借上料	1,895千円
・消耗品費	177千円
・原材料費	5千円
【特定財源】	
国庫補助金(発掘調査)	2,030千円

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	発掘届出・試掘調査依頼書件数	単位	件
指標の説明	発掘届出と試掘調査依頼書の提出件数合計。「令和5年度目標」は過去3ヶ年(令和2~4年度)の平均値を記載。		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	315	297	310
実績	292	333	-

≪事業の参考数値等≫

令和4年度届出件数	
・発掘届出	274件(発掘45、立会99、慎重130)
・試掘依頼	59件
調査件数	
・発掘調査	40件
・立会調査	77件
・試掘調査	29件

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	発掘・立会調査件数	単位	件
指標の説明	発掘・立会・試掘調査の件数合計。「令和5年度目標」は、過去3ヶ年(令和2~4年度)の平均値を記載。		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	147	154	149
実績	158	146	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
埋蔵文化財は、その性質上、一度損傷を受けると二度と元には戻すことはできない。工事等で影響を受ける埋蔵文化財については、関係者と事前に協議を重ね極力現状で保全するようにしているが、どうしても支障がある範囲については、必要最小限の発掘調査を行って、記録保存をしている。発掘調査後は出土遺物の整理、検出遺構の精査検討、写真撮影、図面浄書(トレース)等といった作業を経て、その成果を周知・公表するために発掘調査報告書を作成し将来に継承するとともに、調査成果を展示、公開、活用に努めている。	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
本市の魅力の一つである文化財・歴史資産については、今後も文化庁および大阪府と連携しながら着実に調査をすすめていく。また、整理作業等には、デジタル機器等を導入し、迅速化および精密化を図り、より多くの成果を公開、活用していく。	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-01-03

事務事業名		文化財指定・助成事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4481	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市内に存在する文化財					
	目的(どうしたいか)	市内の文化財を適切に保護を行い、将来に継承していく。また、指定文化財等の公開や活用を積極的に推進する。					
	手段(事業内容)	市内に存する文化財の価値を明確にして、文化財保護法、大阪府文化財保護条例、羽曳野市文化財保護条例に則って、文化財指定等を行う。また、指定文化財等の所有者に対して、適切な保存管理や公開・活用を行う一助として助成金の交付を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	1,724	2,105	6,140
決算額	事業費	1,724	2,105	-
	特定財源等	0	0	-

「主な内訳(令和4年度決算)」

【事業費】	
文化財保存事業費補助金	1,722千円
文化財所有者の会負担金	2千円
文化財保存事業費補助金	381千円
【特定財源】	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	文化財保護審議会の開催回数	単位	回	
指標の説明	指定文化財について審議する専門委員会の開催回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		2	2	2
実績		0	1	-

「事業の参考数値等」

国指定・登録文化財件数	28件
府指定文化財件数	13件
市指定文化財件数	22件

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	市指定文化財件数	単位	件	
指標の説明	羽曳野市文化財保護条例に基づく文化財指定の件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		1	1	1
実績		0	0	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
本市には多種多様な歴史遺産が数多く存在しており、これらは適正な保護を図った上将来に継承していく責務を負う。これらの内、国や府によってその評価を受けたものは、それぞれ指定され保護されている。一方、これら以外で、羽曳野市の歴史を考える上で顕著な価値のある歴史遺産については、羽曳野市文化財保護条例に基づいて市において文化財指定を行っている。また、これらの指定文化財等の所有者については当該文化財の保護やその普及・公開・活用へも協力いただいていることから一定の助成金を交付している。	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
コロナ禍のため、3年間文化財保護審議会開催が見送られ、物件調査も滞っていたが、今年度より候補物件の調査を開始しており、来年度からは指定をしていきたい。	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-01-04

事務事業名		史跡等管理・保存整備事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4481	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市内に存在する史跡や歴史公園、また歴史的に価値が高く重要な遺跡等					
	目的(どうしたいか)	我が国の歴史を理解する上で欠くことのできない史跡地等について、適切な状態で保存して、公開や活用を図る。また、歴史的に価値の高い重要な遺跡等の史跡指定を行い、公有化を推進する。さらに整備に向けての調整を図る。					
	手段(事業内容)	史跡地等の清掃・除草作業、その他史跡等の維持管理に必要な事業を行う。また、歴史的に価値の高い遺跡の史跡指定や整備に向けての調整を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	190,573	86,524	90,538
決算額	事業費	180,821	86,014	-
	特定財源等	144,392	60,156	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】
史跡清掃委託料 5,709千円
植栽管理委託料 3,468千円
史跡看視業務 131千円
その他経費 501千円
応神天皇陵古墳外濠外堤 76,205千円
【特定財源】
国庫補助金 60,156千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	史跡等指定面積	単位	㎡	
指標の説明	国や府指定史跡、遺跡公園等の面積			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		104,455	100,503	104,855
実績		100,503	104,855	-

≪事業の参考数値等≫

令和4年度実績 史跡等指定面積
応神陵古墳外濠外堤 28,400.08㎡
菅田白鳥埴輪製作遺跡 5,211.12㎡
墓山古墳 44,264.00㎡
峯ヶ塚古墳 11,529.06㎡
白鳥陵周堤 2,698.89㎡ 通法寺跡 6,602.67㎡ 観音塚古墳 1741.25㎡ 庭鳥塚古墳 2,174㎡ 菅田史跡公園 150㎡ 翠鳥園遺跡公園 1,874㎡ 飛鳥千塚210㎡

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	史跡公有化面積	単位	㎡	
指標の説明	国や府指定史跡、遺跡公園等の面積のうち公有化を行った面積			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		1,731	901	960
実績		1,731	901	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
我が国の歴史を考える上で欠くことのできない重要な遺跡等は、史跡に指定されている。本市では、応神天皇陵古墳外濠外堤をはじめ、多くの史跡や遺跡公園がある。これらを適正な状態で維持管理するために、定期的に除草や樹木剪定、清掃や看視業務を委託している。将来的には計画的に整備・公開を行っていき市民の憩いや学習の場に活用していく必要がある。また、指定史跡以外にも世界遺産の構成資産周辺については、一定の環境整備に加え発掘調査によって遺構等が確認された場合は積極的に保護を図ることとしており、史跡指定を含めた保全や整備活用の検討が必要となる。そのため令和3,4年度において「国史跡古市古墳群保存活用計画」の検討および策定を行った。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
公有化は史跡地などの保護に関して非常に有効な手段であるが、取得後の活用については、種々の制限や条件があるため、積極的に取り組めていない現状がある。 一方、文化庁からは近年文化財等に関して活用を促進する方針を打ち出しており、「国史跡古市古墳群保存活用計画」を令和4年度に策定している点を踏まえ、先の現状とあわせて文化庁と協議を行い、史跡地の活用方針を打ち出す必要がある。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-01-06

事務事業名		文化財保管施設管理事務事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4481	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内に存在する文化財整理作業及びその施設管理					
	目的 (どうしたいか)	文化財を適切に保管して、市民等に公開、活用するため、文化財の調査研究や整理作業を行う。また、その作業施設を適正な状態で管理する。					
	手段 (事業内容)	発掘調査で出土した遺物の洗浄、分類、注記、接合や復元、実測等の記録作成、図面や写真の整理、これらの保管作業を行っていく。また、その作業施設の適正管理も行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 修繕費 1,070千円 光熱費 558千円 機械警備委託料 73千円 庁用器具費 799千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	1,373	2,658	1,308		
決算額	事業費	1,281	2,534	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標 (事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)				
指標名	修繕必要箇所数	単位	箇所	
指標の説明	文化財資料の整理作業施設や保管施設における修繕必要箇所数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	1	1	1	
実績	1	1	-	

成果指標 (事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)				
指標名	修繕終了箇所数	単位	箇所	
指標の説明	文化財資料の整理作業施設や保管施設における修繕済箇所数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)	1	1	1	
実績	2	1	-	

≪事業の参考数値等≫
コンテナ保管数 ・文化財収蔵庫 7764 ・文化財作業室 2313

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。		B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市内の発掘調査等で出土した遺物など市民をはじめ広く公開していくために、整理作業を効率的かつ円滑にしていく必要がある。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
現在の整理作業施設は、経年劣化をはじめ耐震にも問題があるため、施設の在り方を総合的に検討していく必要がある。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-02-01

事務事業名		文化財等の魅力発信事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4481	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市民等(児童・生徒も含め)					
	目的(どうしたいか)	本市の多様で豊かな歴史遺産の価値、魅力やおもしろさを知っていただき郷土愛を育む。また、歴史遺産を通し想像力や感性も養う。					
	手段(事業内容)	児童、生徒や教員、ボランティアガイド等を対象にした出前授業や研修を開催する。また、生涯学習の観点から、現地見学や講演会等の開催やその支援に積極的に取り組む。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和4年度決算)≫	
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	【事業費】 【特定財源】	
当初予算額	事業費	0	0	0		
決算額	事業費	0	0	-		
	特定財源等	0	0	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	職員派遣等協力依頼件数	単位	件	
指標の説明	講師派遣、博物館学実習や学校授業等の協力依頼件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		10	10	10
実績		12	12	-

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	対象人数	単位	人	
指標の説明	講座や授業を受講した人数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		500	500	500
実績		300	450	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	改善して継続
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
本市の豊かな歴史遺産の特徴を、学校教育や生涯学習などあらゆる機会を通して十分に伝えていきたい。人類最古の時代から世界文化遺産に登録された応神天皇陵古墳、日本遺産に登録された竹内街道や現在に至るまで日本史の各時代を代表する遺跡や遺物といった多種多様な歴史遺産が存在している。他市等にはない本市のユニークな特徴を周知して、ひとりづくりやまちづくりに寄与したい。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
令和5年4月1日付で文化財課と世界遺産課が合併したことを受け、両課で目的が重複する事業、類似する事業などが複数見受けられる。また、それぞれに個別の事業ではあるが、関連をもたせることで相乗的な効果を狙うことが可能と考えられるものも存在するため、啓発、周知系の事業を効率的に見直していく。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-03-01

事務事業名		世界遺産連絡会議事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4480	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
事業の概要	対象(誰を・何を)	①羽曳野市民・藤井寺市民 ②国内外からの来訪者 ③古市古墳群					
	目的(どうしたいか)	①世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の「古市エリア(古市古墳群)」の保存管理と構成資産等の継承、②古市エリア(古市古墳群)の価値・魅力の発信と地元の誇りの醸成、③来訪者の効率的・効果的な受入体制の整備					
	手段(事業内容)	古市古墳群を紹介するリーフレット、ウォーキングマップなどを作成。ウォークイベントなどを実施し、魅力の発信と保存活用に取り組んでいる。もずふる応援隊の募集、運営を行っている。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	475	475	475
決算額	事業費	473	335	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和4年度決算)》

【事業費】
 ・需用費606,444円
 ナップザック(ウォーク&クリーン用)、クリアファイル、ピンバッジ各作成、缶バッジパーツ購入
 ・備品購入費54,780円
 バッテリー
 ・役務費8,450円
 郵送料、振込手数料
 (※羽曳野市負担は、上記経費の1/2)

【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	同会議開催回数	単位	回	
指標の説明	羽曳野市と藤井寺市にまたがって存在する古市古墳群について、情報発信をはじめさまざまな取り組みにかかる計画等について、両市で協議を行う。			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		4	2	2
実績		1	1	-

《事業の参考数値等》

※もずふる応援隊「個人」隊員数
 平成30年度実績 1,983人
 令和元年度実績 2,012人
 令和2年度実績 2,019人
 令和3年度実績 2,030人
 令和4年度実績 2,040人

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	もずふる応援隊の団体隊員数(羽曳野市受付分)	単位	団体	
指標の説明	藤井寺市、羽曳野市内で活動する団体が発起人となり、世界文化遺産登録に向けた地元の機運醸成を図るため、設立された「もずふる応援隊」の団体隊員数(累積)			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		200	200	200
実績		198	198	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
2019(令和元)年に登録された世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は、人類の宝として保存・継承していく必要がある。このためには、保存を第一義としながらも、まちづくりやひとづくり等に活用していく必要がある。特に、「古市エリア(古市古墳群)」は、羽曳野市と藤井寺市にまたがって分布しているため、保存や活用、その継承については、2市の連携や協力は必須である。これらの取り組みは、行政のみならず、市民や諸団体とも連携を深めていく必要がある。	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」、とりわけ「古市エリア」の保存や継承を図るに当たって、その価値や魅力を広く伝えるために、2市の行政体に留まらず、市民や諸団体と一緒に、さまざまな事業に取り組む必要があると考える。既往の事業に加えて、質の高い新しい試み等を積極的に実施していくため、2市の相互の特徴を活かしながら、連携や協力的体制の強化を目指す。また、2市の連携事業関連の一つである「もずふる応援隊」についても、あらゆる機会を捉えて周知を図り、その登録者数の増加を目指したい。	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-03-02

事務事業名		世界遺産保存活用会議事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4480	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	10	世界遺産保存活用事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	百舌鳥・古市古墳群					
	目的(どうしたいか)	世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の保存・活用					
	手段(事業内容)	大阪府、堺市、藤井寺市と羽曳野市の4者で構成している「百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議」にて、資産の保存管理、価値や魅力の発信、遺産影響評価やモニタリングの実施方法等について検討などを行っている。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	3,488	3,489	27,911
決算額	事業費	2,936	3,020	-
	特定財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】
収入36,381,277円(大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市分担)
(うち本市負担3,487,500円…①)
支出32,626,100円(以下内訳)
総合調整事業費965,660円
資産等保存活用事業費12,962,528円
来訪者対策事業費18,697,912円
収入36,381,277円-支出32,626,100円=3,755,177円
(うち本市返戻金 468,022円…②)
①-②=3,019,478円
【特定財源】

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	同会議の開催回数	単位	回	
指標の説明	本部会議及び幹事会を実施した件数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		14	14	14
実績		14	10	-

≪事業の参考数値等≫

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	ウェブサイトアクセス数(セッション数)	単位	回	
指標の説明	保存活用会議において作成しているウェブサイトのアクセス数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		800,000	800,000	400,000
実績		408,350	383,288	-

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に登録され、今後、保存・活用・継承に、地元4自治体が連携して取り組んでいく必要がある。新たな開発が資産や周辺環境に及ぼす影響を評価し、マイナスの影響を及ぼすことを回避するための遺産影響評価(HIA)や、ユネスコ及び文化庁への定期報告とそのためのモニタリングには、4者が実施方法等とともに検討しながら足並みをそろえて取り組まなければならない。また、「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を知らせていくための子ども向けの学習資料の作成や、首都圏へのPRなど全国からの誘客の取り組みなどもともに進めていく。</p>	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>従来事務局は主として大阪府と堺市が担っていたが、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の保存や活用、継承にかかる統一的な視座のもとでの運営を確保するため、令和2年度以降は羽曳野市、藤井寺市も対等な立場で事務局に参画することとなり、実施施策や事業内容について、さらに能動的、積極的に参画する必要がある。世界遺産登録4年目を迎え、保存管理や次世代への継承等について、従前の者に加え新たな課題も出てきている現状を踏まえると、関係自治体である大阪府と堺市、藤井寺市との連携をより深めて事業を行う必要がある。</p>

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-04-01

事務事業名		「百舌鳥・古市古墳群」周知啓発活動事業			事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室			連絡先		内線4480	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化			款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり			項	5	社会教育費
						目	10	世界遺産保存活用事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市民ほか						
	目的(どうしたいか)	市民への世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値・魅力の普及啓発、保存への参加意欲の増進						
	手段(事業内容)	シンポジウムの開催、各種集まりでの講演、学校への副読本の配付や古墳学習への支援などの普及啓発の取り組み、市のイベント等でのPR、応神天皇陵古墳外濠外堤花畑での摘み取りの会などの各種イベントの開催、関連グッズの頒布など、あらゆる機会を通じた啓発に努める。						

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	5,623	6,128	4,761
決算額	事業費	3,471	4,303	-
	特定財源等	365	406	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】 ・需用費 消耗品費635,868円 小学生用副読本制作407,000円 年賀ハガキ印刷79,200円 ポストカード作成83,600円 横断幕作成99,000円 ・委託料 市民フェスティバルPRブース79,200円 応神天皇陵古墳外濠外堤花畑管理委託料2,750,000円 学校園にかかる動画編集66,000円 ・使用料 図書館共同イベント施設使用料9,460円 ・備品購入費 蜂塚公園管理棟でのプロジェクター-93,500円 【特定財源】 小学生用副読本製作 27,800円 年賀ハガキ印刷 378,000円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	講演会開催回数	単位	本	
指標の説明	団体、町会などで世界遺産の話をした回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		20	20	20
実績		10	22	-

≪事業の参考数値等≫

令和4年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業(世界文化遺産))を活用して、実行委員会形式で以下の事業を行った。 ①「令和4年度世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の魅力味わう市民講座(3回シリーズ)」の開催 延べ351人参加 ②「「百舌鳥・古市古墳群」世界遺産シンポジウム世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を守り、活かし、そして未来へ」の開催 116人参加

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	世界遺産PR動画閲覧回数	単位	回	
指標の説明	羽曳野市公式YOUTUBEチャンネルにアップした動画の閲覧回数(H29~)			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		100,000	100,000	400,000
実績		50,171	314,017	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
世界遺産登録が決定した、2019年ユネスコ世界遺産委員会では、地域の住民によって古墳群が1600年以上守られてきたことが高く評価され、また、追加的勧告として、資産の保存管理に地域住民がフォーマルに関わる仕組みを検討することが求められている。今後、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を、人類の宝として未来永劫守っていくためには、地域住民の協力が不可欠である。 そのため、今後さらに、地元住民、とりわけ次代を担う子どもたちに、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値・魅力を知ってもらい、「これほど貴重なものが地元にあるのだ」ということを誇りに思ってもらうとともに、将来にわたって守っていく意欲を高めていくことが大切である。	

今後の改善内容
(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は、市街地の中に存在し、その将来的な保存、今後のまちづくりやひとづくり等にかかる活用などは、行政単独ではなしえない。 今後、地元市民はもちろんのこと、とりわけ子どもを対象とした周知や情報発信が必要と考える。現在学校に配付している副読本以外の子ども向け教材の作成や、あらゆる機会をとらえて、市民とともに世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を発信できる取り組みをさらに進めていく必要がある。

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-04-02

事務事業名		来訪者受け入れ環境整備事業			事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室			連絡先		内線4480	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化			款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり			項	5	社会教育費
						目	10	世界遺産保存活用事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	羽曳野市民・国内外からの来訪者						
	目的(どうしたいか)	国内外からの来訪者を効果的・効率的に受け入れる。来訪者に価値や魅力を理解してもらう。						
	手段(事業内容)	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産構成資産を中心とする史跡地等に解説板を設置する。 解説板の表記を多言語対応にする。 来訪者のために、古市駅東広場設置の古市古墳群立体模型看板の修繕を行う。 						

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	100	2,415	927
決算額	事業費	198	1,307	-
	特定財源等	0	499	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

<ul style="list-style-type: none"> 【事業費】 ・修繕費 古市駅東広場の古市古墳群立体模型解説版板修繕250,800円 ・役務費 筆耕翻訳料56,250円 ・委託費 パノラマ写真撮影委託料66,000円 庁舎本館屋上、史跡地地上看板製作経費933,900円 【特定財源】 大阪府市町村等観光振興支援事業補助金499,000円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	OSAKAFREEWI-FI認証数	単位	数	
指標の説明	峰塚公園管理棟内に設置したWi-Fiの認証数(H30.3~)			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		30,000	30,000	30,000
実績		26,674	10,959	-

≪事業の参考数値等≫

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	古墳動画視聴数	単位	回	
指標の説明	応神天皇陵古墳外濠外堤 花畑前に設置した説明看板に貼付しているQRコードの動画視聴回数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		700	700	700
実績		106	155	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>市街地の中にある世界遺産という状況や、現地を来訪して等身大で文化遺産の価値と魅力を来訪者が体感できるように考慮して、史跡地等での説明板の設置を積極的に進めてきた。さらに、庁舎本館屋上から応神天皇陵古墳をはじめとする世界遺産構成資産が眺望できるので、そこにも解説看板を設置した。その説明板には、最新の調査成果を踏まえ、写真や図を盛り込む工夫を行った。また、日本語のみならず、英語と韓国語により多言語での解説を意図した。今後は、多言語の種類を増やしていく方向を模索する。</p>	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>世界遺産登録を機に、来訪者の数が従前と比して増加したが、それに十分対応できるだけのトイレや駐車場などの便益施設の整備が、今なお不十分である。今後、来訪者数は落ち着いていくとは思われるが、一定の上記便益施設の整備が必要である。現在、周辺店舗に依頼し、来訪者へのトイレの提供等を行っていただける店舗にステッカーを貼付していただく取り組みを進めているが、それをさらに推進するとともに、他の有効な方策がないか検討する。また、現状では、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や重要性を来訪者にわかりやすく理解してもらうためのガイド施設整備も課題となっている。土日などの休日に見学できる施設が不足している。世界遺産をはじめとする文化遺産の価値や魅力を発信していく方向性を検討していく。</p>	

令和5年度羽曳野市事務事業評価シート(令和4年度実施事業)

事務事業コード 631-04-03

事務事業名		古墳DEるるる開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		文化財・世界遺産室		連絡先		内線4480	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	10	世界遺産保存活用事業費
事業の概要	対象(誰を・何を)	市民ほか					
	目的(どうしたいか)	地域住民、特に今まで古墳や世界遺産に興味を持っていなかった方々に、古墳群の価値や魅力、そのおもしろさを知り、愛着をもっていただくきっかけづくり。					
	手段(事業内容)	「知る」、「見る」、「食べる」の3つのキーワードにしたコンセプトで、気軽に参加できるイベント。「知る」のコーナーでは、古墳や世界遺産学習の成果展示、出土品や古墳の見学、オリジナル缶バッジやストラップ、古代衣装試着等。「見る」のコーナーは、ステージでの地元中学生による吹奏楽演奏や、古墳音頭、チャリディング、和太鼓やトーク、抽選会の実施。「食べる」コーナーでは、キッチンカーや古墳グッズの出店など。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
当初予算額	事業費	439	949	949
決算額	事業費	327	887	-
	特定財源等	0	886	-

≪主な内訳(令和4年度決算)≫

【事業費】
消耗品費167,526円
印刷製本費333,960円
備品購入費63,833円
会場設営・整理等経費218,980円
広告宣伝費(新聞折込)92,400円
役務費(衣装クリーニング、振込手数料)9,560円
【特定財源】
公益財団法人地域社会振興財団からの「令和4年度人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業交付金」を活用886,000円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	実行委員会参加者数	単位	人数	
指標の説明	実行委員会に参加した人の数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		30	30	30
実績		20	20	-

≪事業の参考数値等≫

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	イベント当日参加者数	単位	人数	
指標の説明	イベント全体の参加者数			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標(見込)		500	500	1,000
実績		1,200	700	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を未来永劫守っていくためには、地元住民、とりわけ次代を担う子どもたちに、価値・魅力を伝え、守っていくことと思ってもらうことが大切である。だが、未だ周知が不十分な状況であり、古墳に興味のない子どもたちに興味関心を持ってもらうための工夫が必要である。</p> <p>本事業は、古墳関連グッズ、食品、古墳にまつわるクイズ、体験など、様々な切り口から古墳や世界遺産に興味・関心を持ってもらうことを目的とした事業であり、この課題に対応するものとして重要である。また、市単独でなく、実行委員会形式でもずふる応援隊とともに作るイベントである点でも、住民とともに古墳群の保存活用を進めていくという方向性に合致しており、今後充実させていきたい取り組みである。</p>	

今後の改善内容	(令和5年度以後の事業実施への改善内容)
<p>世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を、地元をはじめとする幅広い世代の人々に継承していくため、「古墳DEるるる」を市民等の参加を意図した実行委員会の形式で開催してきた。開催回数を重ねる中で、以下の点が課題や意見として挙げられる。</p> <p>今後催しの趣旨をよりレベルの高いものにするため、企画や立案の内容を深化させていくことが必要と考える。</p> <p>また安定的な運営を行えるよう、財源の確保に努めるために、助成金や補助金等の活用を積極的に検討する。</p> <p>さらにこれらの取り組みを進めるうえで、催し自体とその実行委員会の存在について、より広く情報発信を行い、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」に関連する、他自治体等との連携を深める方策を検討する。</p>	